



3/1

子どもだけのときの 被災に備えて



子ども防災講座

筑紫南コミュニティ運営協議会が子ども防災講座を開催しました。講座には、15人の子どもたちが参加し、地元の中学生防災士も講師として参加しました。講座では、新聞紙で作るスリッパやビニール袋で作るポンチョといった防災グッズ作成や、身近なものを担架にする救助体験などを行い、受講後は参加した子どもたちに受講証として、「みなみ防災レンジャー隊員認定証」が与えられました。



手作りのスリッパとポンチョを身にまとう子どもたち

2/24

大人が気づかない 課題と現状



筑紫高校プロジェクトC

筑紫高校では、市の現状から課題を発見し情報を分析して解決策を説明する、地域の課題探求の授業「プロジェクトC」に取り組んでいます。8月に市職員から観光や防災など現状の説明を受け、グループで議論を重ねてきました。発表では、クラスから選抜された10グループが、夏祭りと防災イベントの同時開催など、実施するために必要なことも含め発表しました。



当時1年生の399人が発表を聞き、学びあいました

3/11

人権尊重の まちづくりのために



山家小6年生の街頭啓発

「人権尊重のまちづくり」の学習をした山家小学校の6年生(当時)が、人権尊重の大切さを地域に発信しようと考え、西鉄筑紫駅前で、ティッシュやボールペンを配って啓発活動を行いました。受け取った人から「ありがとう」と声をかけられ、子どもたちは、自分たちの思いが伝わったという喜びでいっぱいになりました。



人権尊重の思いを直接伝えました

3/1

安全と安心を 守るため出発



春季火災予防運動・山火事予防運動 防火パトロール

火災や山火事予防の意識を高め、市民の命や財産、地域の安全を守ろうと、3月1日(日)から7日(土)まで、春の火災予防運動を行いました。初日の出発式には、筑紫野市消防団のポンプ車9台、小型ポンプ積載車3台、広報車1台と、団員111人が出動しました。各地で山林火災が頻発していることから、竜岩自然の家周辺で山林火災を想定した訓練を行いました。



期間中、夜間パトロールも行いました

3/15

ことは「中の上」、
雨は少なし



筑紫神社「粥占祭」

市内原田の筑紫神社で、神殿に1カ月間納めた「かゆ」に生えたかびを見てその年の農作物の豊凶などを占う「粥占祭」が行われました。200年以上の歴史があり、市の無形民俗文化財に指定されています。今年の占いの結果は、雨は少なく害虫は多いが、表面に良い運勢を表す黄色のかびが多く出たため、占いの全般判断は「中の上」でした。



判断員がかびの生え具合や色などを見て結果を判断します

3/13

旅立ちの春に
花は咲く



市内中学校卒業証書授与式

市内5中学校で卒業証書授与式が行われました。市内で1,058人が卒業し、新たな一歩を踏み出しました。二日市中学校で行われた式で、卒業生代表の吉田 梓真さんはこれまで支えてくれた全ての人への感謝を述べ、「ともに3年間過ごしてきた「人権・平和・共生」のテーマをこれからも大切に生きていきます」と誓いました。



卒業証書を受け取る二日市中学校卒業生

3/15

えがお
笑顔のタスキリレー



第70回筑紫野市駅伝大会

今年で70回目の開催となるこの駅伝大会は、市民の体力の向上と参加者同士の連帯感を深めようと開催しています。晴天のもと、ランナーたちは1人2.5キロのコースを5人でつなぎました。この大会の魅力の一つは、沿道からのチームの粋を越えた拍手や声援と、タスキをつなぐチームの結束力です。走り終えたランナーの表情からはやり遂げた充実感があふれていました。



声援に背中をおされ、およそ120人が駆け抜けました

3/14~15

げいじゅつ
芸術あふれる2日間



ちくしの芸術祭

筑紫野市文化会館が多くのアートに彩られ、ステージでは幅広いジャンルのパフォーマンスが繰り広げられました。当日、ゴスペル初体験の人もステージ上で一緒に歌うプログラムでは、多くの人に参加しました。共に一つの音楽を完成させ感動を分かち合った参加者たちは、「緊張したけど楽しかったです」と笑顔で語ってくれました。



会場を巻き込んで盛り上がりました